



トライズ株式会社 代表取締役社長／英語コーチングスクール「TORAIZ」主宰

みき

たけのぶ

三木 雄信さん

1972年、福岡県生まれ。東京大学経済学部卒業後、三菱地所株式会社勤務を経て、ソフトバンク株式会社に入社。孫正義氏の下で、マイクロソフトとのジョイントベンチャーの設立、ナスダック・ジャパンの創設、日本債券信用銀行の買収、ソフトバンクの通信事業参入のベースとなったブロードバンド事業のプロジェクトマネージャーを務める。2006年、トライオン株式会社（現：トライズ株式会社）を設立。著書に『孫社長のプロジェクトを最短で達成した 仕事が進むチームのすごい仕組み』（PHPビジネス新書）、『孫社長のむちゃぶりをすべて解決してきた すごいPDCA』（ダイヤモンド社）ほか多数。

【写真】安岡 嘉

孫正義氏に鍛えられた経営力で 英語教育事業をリード

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、特定非営利法人キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、一般社団法人留学生支援ネットワーク理事、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム理事・事務局長、高知大学経営協議会委員・客員教授、中小企業診断士、早稲田大学法学部卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材事業を産学官において展開。公的委員も多数兼任。【インタビューの教科書】(同友館)をはじめ、著書多数。

HARA's BEFORE

「1年で英語が話せる」を掲げ、英語コーチング事業を手がけるトライズ社。この会社を率いる三木氏は、ソフトバンク勤務時代、社長室長として孫正義氏の経営を直接学んできた。事業成長を実現しているその手腕を掘り下げたい。



英語は1年でマスターできる!

原：まずは事業の現状をお聞かせください。

三木：メインの事業は、英語コーチングプログラムのTORAIZ（トライズ）です。ゴールから逆算した学習設計と個別サポートにより、1年間でグローバルビジネスに必要な英語力を身につけるものです。特長としては、伴走型のコンサルタントと英語のネイティブコーチの2人がコンビになり、1人の受講生をしっかりとサポートする、教えるという仕組みです。英語力の判定には「VERSANT」という英語スピーキングテストを使いますが、スマートフォンやパソコンでいつでもどこでも受験可能で、全63問の英語の質問に英語で答えるものです。終了後、すぐに結果もわかり、スコアの解説や学習のアドバ

イスもあります。受講生に毎月受けてもらっていますが、受講生のモチベーション維持に役立っています。

これまで「英会話は1、2年で話せるものではない」という認識でした。会計士で3,000時間、診断士1,000時間など、資格取得には必要な学習時間の目安があるのに、英語学習ではあまり認識されていませんでした。それを、当社では1年で話せるようになるパッケージを作りました。私自身がソフトバンク社の社長秘書時代に孫正義社長とアメリカに同行した際、自分の英語力の低さを思い知ったんです。同時に、孫社長の英語がブロックンながらも十分通していることを目の当たりにし、「1年くらいで何とかなると」と思い、英語を身につけた経験がありました。

英語教育ではインプットとアウトプットを、その人に合った教材でやるのが大事なんです。子供は一般的に何でも覚えるのが早いですが、大人になると仕事など興味があることしか覚えられないものです。日本では大人と子供の学習を区別していませんが、アメリカではアンドラゴジー（自ら学び探求する）とペタゴジー（教えられる）は分けています。当社でのコーチング手法としては、まずコンサルタントが「なぜ英語をやりたいか」を聞き、動機を明確にして教材も最適なものを選びます。外国人などのネイティブのコーチでは英語は教えられても、そのような把握ができません。

原：それぞれ強みを生かした役割分担で学習を支援するんですね。

三木：単に英語が話せるだけではなく、豊富なビジネス経験があるネイティブのコーチが教えて